

つきたい力

- ・みずからの思いや願いを言語化し、相手を意識して伝えることができる力
- ・みずから問いを持ち、その解決に向けて仲間と話し合い、解決しようとする力

取組みの概要・ポイント

- ・つきたい力(ゴール)を明確にした授業づくり
- ・ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進

茨木市HP
モデル校の取組み



具体的な取組みの内容「学ぶ側から授業を見る」ことから始める単元づくり

つきたい力(ゴール)を明確にした授業づくり

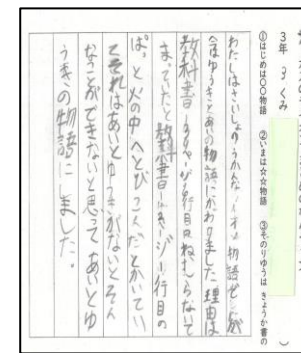
【単元でつきたい力をつける】

・国語の指導事項を確認し、何のために学習をするのか必要感をもって学習に取り組めるようにする。単元開きとともに、子どもたちとつきたい力を共有し、どのような姿がゴールなのかを明確にする。



【自分の考えの変容を文章化する】

・単元終末で「まとめの感想文」として書く。教材に出会ったときの感想と、友だちと読みを深めた感想を「まとめ」として書き、自分の読みの変容を確認する。その際、叙述に基づいた根拠を示して書く。



「学び方」「学びの表現」を選択

【個に応じた学び方で主体的に取り組める】

- ・学び方を一人、ペア、グループなど、自分で選択する。
- ・言語活動の表現方法を選択する。

一人で



ペアで



グループで



ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」

【自分の考えを形成する】

・「初発の感想」を「感想文」として書くのではなく、焦点化した投げかけにより、それぞれに明確な回答がでるようにする。① 読んで一言「〇〇物語」② 漢字一文字で表す③ 印象に残った場面など、ICTで共有する。そこから子どもたち同士が「なんでかな？」など、感じ方の違いを楽しむ様子があった。

【友だちと協働的に取り組む】

・「学校 みんなにドリンクを売ろう」という課題設定のもと、「具体的にどのような人に売なのか」「どのような効用があるのか」など、目的や場面・状況をはっきりさせて、各班で構成等も考えた。さらに自分たちでコマーシャルを撮影し、その動画を視聴しながら、互いに評価しながらメモをとるなど、学びにつなげることができた。

取組みを通しての子どもの変容

子どもたちの最後まであきらめずに書こうとしている姿が見られた。全国学力・学習状況調査(記述問題)無解答率が9.3%(2023年度)から5.8%(2024年度)に減少した。言語活動を通して、つきたい力をつけていくこと、そして「子どもたちが前のめりになって学ぼうとする姿がみられる授業」をおこなうことをめざし、研修を進めることで、子どもたちの目標が明確になり、自己効力感につながっていった。

アンケート項目	4月	7月末	12月末
国語の授業が好きだ。	76%	81%	85.7%
国語の授業で学んだことを、他の教科の学習でもいかしている。	79%	86%	92.4%